

会長の人柄しのぶ 関係者ら1000人参列



「お別れの会」で謝辞を述べる上武建一社長＝25日、大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪

上武建設創業者、上武勝宣さん「お別れの会」

での収益圧迫などで、マインズ14・7の「下降」超の見通しとしている。
産業別では、製造業は原材料費をはじめ各種費用の上昇から繊維や食料品で厳しい回答だったが、製造ライン増設に伴う受注増があった生産用機械などが好調で全体では2・3。13期ぶりの「上昇」超で、従前の見通しに反し、前期(26年4～6月期)のマイナスからプラスへと改善した。
非製造業は、新規顧客の獲得で物品賃貸などが引き続き堅調と答えた。しかし、原材料価格の高騰や需要低

規模別では、大企業(資本金10億円以上)が10・0で、4期ぶりに均衡から「上昇」超になった。中堅企業(同1億円以上10億円未満)はマイナス4・0で、前期から横ばいながら「下降」超の状況が続く。中小企業(同1千万円以上1億円未満)はマイナス8・3で、3期連続の「下降」超となった。
先行きは、26年10～12月期が大、中堅企業が「上昇」超、中小企業は均衡の見通し。27年1～3月期は大企業が均衡、中堅、中小企業が「下降」超の見通しとし

東京商工リサーチ奈良支店は28日までに、建築工事などの村上建設(三郷町、寺川修司社長)が、事業継続が困難になったとして破産申請の準備に入ったと発表した。新型コロナウイルス

破産申請の 負債総額 2億4

負債総額 2億4

気味超。製造業、非製造業とも人手不足の状態が続いており、今後も変わらず推移するとみている。製造業

6月26日に83歳で亡くなった上武建設創業者グループ会長、上武勝宣さんの「お別れの会」が25日、大阪市天王寺区のシェラトン都ホテル大阪で営まれた。約千人が参列して別れを惜しんだ。

「お別れの会」は「仕事には妥協なき厳しさがあったが、家族、社員、周りの人々を大きな愛で包んでくれた。その姿を多くの人が慕った。上武会長を敬愛する私たち一人一人の中に会長は生き続ける。どうか安らかに休みいただきたい」と弔辞を説

に支えられ、愛されてきたのかを実感した。会長が愛した上武建設グループのさらなる発展に誠実にまい進していく」との決意を披露し、感謝の言葉を述べた。最後に参列者が一人一人献花し、故人の冥福を祈った。

関係者ら1000人参列